

- ・松陰 敬仰の気運醸成
- ・松陰 精神の継承普及
- ・松陰 教学の研究振興

○編集発行 財団法人松風会  
〒753 山口市大手町2-18  
山口県教育会館内 TEL. 0839 221218



会報

# 松門

## 「松陰先生に学ぶ教育」を

### 称えて



財団法人松風会

理事長 松 永 祥 甫

日日の新聞やテレビのニュース一つを取り上げて見ましても地球規模で然も猛スピードで政治・経済・科学・社会の変化進展が伺われます。とり分け日本経済の繁栄は世界第一と云われます。しかし、最近の社会事象から見ますと、実に深愛に堪えないものがあります。結局、人間は社会的存在でありますので、対人関係を如何に教えるべきかということが基調になるように感じます。人として如何に考え、行動するかということに帰結致します。そこに実践的倫理道徳が提唱致されます。吉田松陰先生はその理想像として私の脳裏に浮かび上って参ります。

一例を上げますと、一流の企業が人心を脅かす暴力団に付け込まれ、莫大な資金を巻き上げられておりますが、松陰先生の士規七則にある「士の道は義(正義、義理、義務)より大なるは無義(義は勇に因りて行われ、勇

は義に因りて長ず」この言葉を中心とし行動に移せば何の恐れもありません。根本的に教育の必要な所以であります。生涯教育の一環として誰人も松陰精神を学ぶことを私は現時点に於いて特に提唱を致します。

## 松陰教学の勧め



萩市教育委員会

教育長 都 築 泰

ますので、人間形成の基礎教育として最も大切な教育であります。人間は又環境によって大きな影響を受けます。このように考えて参ります。このように松陰教育を学校に於ける教育指導の根幹としていると申されている教育方針は将に金的を射たものと確信致します。

学校高学年生に配付し、学校での松陰学習を勧めました。「松陰読本」の学習を通して、松陰先生の至誠の生き方を師弟が行うことによって、人間尊重の精神を感得し、真理と正義を愛し、実践意欲に満ちた人間の育成を期待したのであります。

昨年、松陰生誕百六十周年に、「吉田松陰とわたし」と題して作文募集した入選作の中に、「松陰読本を読むたびに、短く、主、松陰の生涯が私の心の中にじわじわとしみこんでくる。私が一番感動するのは、先生がいつも求める心を持ち続けておられることだ。私にも知識を求める気持ちがある。先日もホテルのことで旺文社に問いあわせてみた……。」と。「松陰読本」の学習が透過し、定着してきていると思われる一例です。

萩市では、学校教育の基本方針に、「至誠」を基調に藩学明倫館の「成徳達材」や松下村塾の「師弟同行」の精神を継ぎ、……と掲げ、学校における教育指導の根幹に松陰教学を置いています。

にして松陰先生の教育理念を学んでいきます。」と答えられるようになりまし。各学校で松陰学習が充実してきた切っ掛けは「松陰読本」を採用したことによるものと思っております。

教育委員会は、昭和五十五年に松陰生誕百五十周年を記念し、「松陰読本」を新版編集して小

ある校長は、年頭の講話に、至誠にもとることのないよう強調され、ある校長は、卒業式の辞に立志の重要さを饒げにされるなど、有難い思いがします。

最近では、来萩される教育関係者に、「学校では、このよう

に松陰生誕百五十周年を記念し、「松陰読本」を新版編集して小

ある校長は、年頭の講話に、至誠にもとることのないよう強調され、ある校長は、卒業式の辞に立志の重要さを饒げにされるなど、有難い思いがします。

# 吉田松陰先生に学ぶ

朗唱教育



前教市立明倫小学校長  
善積良朋

一 はじめに

明倫小学校は、藩学明倫館の跡地に開校され、校地の南側と西側は、白壁の土塀と老松に囲まれ、北側は、県立萩商業高等学校に隣接している。

本校では、明倫館の学風である「成徳達材」と人間の師吉田松陰先生の「至誠」を学校教育目標の基底とし、人間性豊かな児童の育成を目指して、鋭意努力を重ねている。

周知のように、小学校は、学校教育の基礎的段階にあり、知・徳・体の調和のある人間形成を目指し、真・善・美・聖を求める教育を担っている。

このためには、子どもの自己努力と経験に基づき、成長発達を期待しつつ、基礎・基本をしっかり指し導くことを教育の基底に据えていかなければならない。

また、人間は一人で存在するものではなく、社会の形成者としての責任を果たす自覚が求められる。

学校としては、学校の固有な教育条件を生かした教育課程の編成に工夫、改善を加えるとともに、学校の経営方針に即して教職員一人一人が、本校の一員としての自覚に立って、豊かな人間性の育成と心の教育の充実に努めてきている。

朗唱教育は、松陰先生の教学精神を象徴する「ことば」を朗唱させることによって、  
一、松陰先生に学び、自己への問いを求め、  
二、学年としての生き方を発見する心  
三、具体的に実践行動する心を奮起し、意欲をもって実践する態度を育てようとするものである。

朗唱の「ことば」は、一学期に一つずつ、六か年で十八の「ことば」を学習している。  
低学年では、主に、礼節を学ぶ「ことば」としている。  
中学年では、立志を学ぶ「ことば」としている。  
高学年では、至誠を学ぶ「ことば」としている。

毎朝八時十五分、全校の各教室から高らかに聞えてくる朗唱の声で、一日の学習が始まる。

以下、「松陰先生のことば」朗唱文を列記する。

一学期

今日よりぞ 幼心を打ち捨てて 人と成りにし 道を踏めかし (一年)

今までは、親にすがり甘えていたが、小学生となった今日からは、自分のことは自分でし、友だちと仲よくしよう。  
万巻の書を読むに あらざらんよりは いずくんぞ 千秋の人たるをえん(二年)

多くの本を読み、勉強しなければ、どうして名を残すようになりつばな人間になることができようか、しっかりと勉強しなさい。  
志を立ててもって万事の源となす 書を読みてもって 聖賢の訓をかんがう(三年)

何事をするにも志がなければ、なんにもならない。  
だから、志を立てることが第一である。書物を読んで、聖人、賢人の教えを参考として、自分の考えをまとめることが大切である。

凡そ読書の功は昼夜を捨てず 寸陰を惜しみて是れを励むに非ざれば その功を見ることなし (四年)

読書の効果をあげようと思えば、昼と夜の区別なく、わずかの時間でも惜しんで、一心に読書に励まなければ、その効をみることはできない。  
誠は天の道なり 至誠にして人の道なり 誠を思う動かざる者は未だ之れあらざるなり 誠ならずして未だ能く動かす者はあらざるなり (五年)

誠というものは人のつくったものではなく、天の自然に存するところの道である。この誠というものに心付いて、之に達しよう、之を得ようと思うのは即ち人の人たる道である。学んで之を知り、つとめて之を行うのは人たるものの道である。

このように誠の至極せる心に会っては、何物も感動されないものではない。誠というものはすべての本になるものである。  
体は私なり 心は公なり 私を役して公に殉う者を大人と為し 公を役して私に殉う者を小人と為す(六年)

人間は精神と肉体の二つを備えている。そして、心は

肉体よりも神(神性)に近いが、肉体は動物に近い。(自己本位)ここでは、精神を公とよんで主人とし、肉体を私とよび、従者とす。すなわち、人間は公私両面を備えている。なお、精神を尊重するのは、良心を備えているからである。主人たる心のために従者たる肉体を役するのは当然のことである(君子)の為すところ。之に反し、従者たる肉体のために、主人たる精神を役するのは小人(徳のない人)の為すところ。同じことをくり返すが

肉体(私)を役して、徳を修め、道を行うことに心がける者は大人、反対に道心、天理(公)をぎせいにして肉体(私)の欲望を満足する事を目的とする者は小人。

二学期  
古き書 読めば 種々思ふなり かからん時に 吾れ生ればや (一年)  
むかしの本を読むと、いろいろな事がわかり、考えさせられる。そういう良い時代に生まれた良かったものだ。

○ 一己の勞を輕んずるにあらざるよりは、いづくんぞ、兆民の安きをいたすをえん (二年)

○ 自分ひとりのことも骨身を惜しまず働くようでないれば、どうして多くの人のために尽くすようなりつば人間になれようか。

○ 凡そ生まれて人ならば、宜しく人の禽獸に異る所以を知るべし (三年)

○ 人間として生まれてきた以上は、動物とは違うところがなければならぬ。どこが違うかという、人間は道徳を知り、行うことができるからである。道徳が行われなければ、人間とはいわれない。

○ 人の精神は目において、故人を顧る目において、胸中の正不正は眸子の瞭眊にあり (四年)

○ 人の人物の善し悪しを判断するには、その人の目を見つめて、そのひとみに注意するより、ましな事はない。人の心に悪い事があれば、ひとみは隠す事ができない。心中正しければ、しぜん、ひとみもはっきりしている。

○ 道は則ち高し、美し、約なり、近なり、人徒らに其の高く且つ美しきを見て以て及ぶべからずと為し、而も基の約にして且つ近く、甚だ親しむべきを知らざるなり (五年)

○ 人の道は高大でまた美しく、同時に簡約であり、手近いものである。しかし、人はその高大で美しいのを見て、とても自分にはできないことだと、はじめからきめてかかるが、(それは間違いであつて)道徳というものは簡単なもの、手近いものであり、また最も親しむべきものであるということを知らない。(日常生活と離れたものではない)

○ 冊子を披繙すれば、嘉言林の如く躍々として人に迫る願うに人読まず、即し読むとも行わず、苟に読みて之れを行わば則ち、千万世と雖も得て尽くすべからず (六年)

○ 本には、いいことがたくさん書いてある。いいことを知るだけではだめです。知ったことは、実行することが大事です。

○ 三学期——親思ふ心にまさる親心、きょうのおとすれ、何と聞くらん (一年)

○ 子どもが親を慕う心持ちよりも、親が子を愛する親心は、どれほどまさつたものであろう。死なねばならぬ私の便りを知つて故郷の両親は、どんなに悲しむことであらう。

○ 朋友相交わるは、善道を以て、忠告すること、固よりなり (二年)

○ 友だちと交わるには、真心をもつて、善に導くようにすすめることは、言うまでもないことである。

○ 功を収むること遠く、其の精誦する所すなわち終身忘れざるなり (三年)

○ (読書するのに)くり返し、くり返し読んで努力する人は、その効果をあげるにかなり時間もかかるが、しかし、その本の文章を暗誦することができて、一生涯忘れることはない。

○ 人と云うものは、その心の奥底までをたどり究めていけば、その本性の善なることが知れる。その性の善なることを知れば、その性はもと天からうけたところであるから、したがって、天が善を好むということが知れる。

○ 仁とは人なり、人に非ざれば仁なし、禽獸是れなり、仁なければ人に非ず、禽獸に近き是れなり、必ずや仁と人と相合するを待ちて道というべし (五年)

○ 仁とは仁を行うところの人のことである。人でなければ仁徳を行うことはない。

○ 禽獸に仁はない。故に、仁徳なければ人ではない。禽獸に近い人がこれである。それで仁徳と人の身と相合するとき、道というのである。

○ 天地には大徳あり、君父には至恩あり、徳に報ゆるに心を以てし、恩を復すに身を以てす、此の日再びし難く、此の生復し難し、此の事終えざれば、此の身息まず (六年)

○ すると云う大きな徳がある。また主君と父母には、情愛にみちた恩愛、洪恩がある。天地の大徳と君父の恩に対しては、心身の全力を尽くして御恩報じにつとめねばならない。

○ 今日の日が暮れると、今日という日は二度と来ないし、この生命も一旦死ぬれば、再びこの世に生まれ出ることはない。よつて前述したような報恩の事を成しとげるまでは、少しの時間も無駄にせず、勉強でも、いっしやうけんめい努め、励まなければならぬ。

○ 三 「不易流行」を考える

○ 教育は、先人の築き上げた文化を次の世代に伝えるとともに、未来に向かって、新しい時代を担う青少年を育成することを使命としている。

○ 一つの時代でも、不易なものに変化するものが存在することを歴史が教えている。今日のように、教育改革に当たっては、長期の展望に立ち英知をもって推進しなければならぬが、先人の業績について関心と理解を深めることが大切である。

# 「松陰読本」の活用について



萩市立白水小学校教諭

刀 禰 元 彦

一 はじめに

「・・・師道を興さんとならば妄りに人の師となるべからず。又妄りに人を師とすべからず・・・」。

この言葉は、松陰先生の「講孟余話」の中に収められている。「師道」の一節の部分である。

この言葉を最初に聞いたのは大学の入学式での学部長の式辞であった。

教育者をめざすわれわれ学生を前に、まず最初にこの言葉を読み上げられ、次に言われたことは、この言葉は誰の教育信条であったのか、われわれ新入生に尋ねられた。

その後、この「師道」を教育信条とした教育者が、日本のペスタロッチ、「吉田松陰」先生であることを話され、また、新入生の心構えとして先生の話を例にとり、式辞を述べられた。

私はこのスタートの日に松陰先生の話が話題になったことに郷土に対する誇りが溢れてく

ると、萩市出身にも拘わらず松陰先生のことをあまり詳しく知らなくてとても恥ずかしい思いをしたことに、既に二十年近く時間は経過したが、昨日のように深く印象に残っている。

さて、萩市では小学校高学年において、郷土の先覚者吉田松陰先生の事績等を学ぶため、「松陰読本」を学習するようになって



萩市教育委員会

この原型は、昭和三十四年に明倫小学校の社会科学研究部会によって出版されているから、市内の小学校では、既に三十数年間の研究と立派な実践の積み重ねがあるわけで、とてもこの紙面で紹介することはできない。そこで、本校（白水小学校）

## 「松陰読本」年間指導計画 萩市立白水小学校

- 1 ねらい  
「松陰読本」を資料として、先生の至誠の生き方を学習することにより、先生の間人尊重の精神を知り、また、真理と正義を愛し実践することのできるたくましい児童の育成を図る。
- 2 指導時間  
4年生以上 各学期 1～3時間（学活及び学級創意）
- 3 指導計画  
第4学年

学期	主 題	ね ら い	指 導 内 容
I	一、松陰の幼年時代	父、百合之助や叔父の玉木文之進の指導のもとで、熱心に勉学に励んだ先生の姿を読み取らせる。	・松陰先生の誕生地 ・松陰先生の家族 父、母、叔父、兄弟 ・松陰先生の勉学する様子
II	二、御前講義	叔父の玉木文之進の厳しい教えを受け止め、勇気を持って御前講義をやっていた先生の態度を読み取らせる。	・叔父の玉木文之進の勉学に対する厳しさ ・藩主の前での松陰先生の態度 ・藩主、毛利敬親公の先生に対する評価
III	三、松陰の修業	松陰先生の言動を中心にして、先生の「至誠」の行動を読み取る。	・明倫館での松陰先生 ・先生の日本全国遊歴 ・東北脱藩

### ☆発展・フィールドワーク

- (1) 松陰門下生の一人、萩藩士 時山直八の生家を見学する。
- (2) 松陰先生についての作文を書く。

### 第5学年

I	四、海外渡航の失敗	先生の国に対する愛情の深さを知り、「やむにやまれぬ」行動を理解する。	・佐久間象山と松陰先生の関係 ・金子重輔との出会い ・下田での渡航失敗
II	五、野山獄	先生の誠実な人柄が、囚人達の心をも動かし教化していくことを知る。	・同志金子重輔への思い遣り ・先生と囚人達(富永有隣、高須久子など)牢中での読書 ・「二十一回猛士談」 ・家族の思い遣り
III	六、幽囚室	強い信念を持ち、万難があっても最後までやりぬこうとする先生の姿を読み取る。	・幽囚室の生活 ・講孟余話、武教全書 ・僧 黙林への書簡 ・松下村塾記

### ☆発展・フィールドワーク

- (1) 時山直八の生家より藩校明倫館、及び松下村塾までの道を徒歩で調べる。
- (2) 松陰先生について作文を書く。

### 第6学年

I	七、松下村塾	塾での先生の子弟同行の態度や、「至誠」の実践の様子を読み取る。	・松下村塾の由来について ・聯 ・門人(高杉晋作、久坂玄瑞など)等
II	八、なみだ松	常に高い希望を持ち、より高い目標をたて、その実現に努める態度を読み取る。	・先生を取り巻く周囲の人々 ・杉家や門人達との別れ ・萩松集 ・和歌「かえらじと・・・」
III	九、松陰先生の最後	正しいと信じたことを最後まで貫き通した先生の姿を読み取る。	・先生に対する幕府の取り調べ ・永別の歌 ・留魂録

### ☆発展・フィールドワーク

- (1) 松陰先生の生涯を表にする。
- (2) 先生に関する市内の史跡を巡検する。

での活用の計画と実践の様子を 反省を含めて記述したいと思う。

## 二 教育を支える計画

昨年度、本校ではこの「松陰読本」の年間指導計画の見直しをすることになり、実施に無理の無いようにすること、また、校区の地域的特色が見られるようにすること、以上の二点を基本に置いて改訂した。

まず、「ねらい」であるが、松陰先生の事績や歴史的事実を知るといふことのみでなく、本校の学校教育目標の人間尊重の精神を育成するという意味を含めている。

次に、指導時間だが、本校では第四学年以上が学級創意、いわゆる「ゆとりの時間」で学習するようにしている。指導時間数は、各学年一ないし三時間を当てている。

「松陰読本」には目次によって分けられている九つの主題があるが、三学年で均等に分割し、三主題一学年、一主題各学期実施という形をとっている。

本校の特色といえば、各学年に発展・フィールドワークという課題を設けており、評価の代わりとしている。

第四学年で触れている時山直八という人物は、本校区出身者で、越後戦争に参謀として従軍



# 吉田松陰に学ぶ

## ―萩市における松陰教学―



萩市立明経中学校長

斉藤 定

○ 萩市学校教育の基本方針と松陰教学

先賢吉田松陰を生んだ萩市では、戦後、新しい観点から松陰の教育理念の見直しを行い、萩市の学校教育の基盤に松陰教学を位置付けている。各学校ではそれを受けて、具体化、実践化を目指して努力している。試みに平成三年度の萩市学校教育の基本方針を見ると、次の通りである。

「教育尊重の伝統は、萩市の誇りである。萩市の学校教育は『至誠』を基調に、藩学明倫館の『成徳達材』や松下村塾の『師弟同行』の精神を継ぎ、さらに新しい教育の創造に努め、力強い躍進をめざす。」  
もちろん『至誠』は吉田松陰がいのちを賭けて、生涯貫きと

おした信念であり、松陰の生き方そのものである。

○ 新規採用教員研修と松陰教学

萩市の教員に赴任した者は、萩市教育委員会の行う研修の一つである、萩の史跡巡りに参加する。

平成二年度の例で見ると、はじめに「萩の歴史」と題して、萩市郷土博物館副館長の近藤隆彦氏から五十分程の講義があり続いて二時間半かけて、市内の史跡巡りを行った。

郷土博物館を出発して、菊屋横丁、松陰神社、東光寺、松陰誕生地を巡った訳であるが、その感想文を見ると、松下村塾や誕生地での印象が強いらしく、ほとんどの教師が、教育者としての吉田松陰に触れている。

以下、感想文の中から、松陰に触れた部分を拾って見る。

○ 特に吉田松陰については、本校とゆかりも深いですが、知らないことも多く、大変勉強になりました。今回の研修に先立ち「松陰読本」に初めて目を通した。また、実際に松陰神社や誕生地で数々の逸話を聞いて、その偉大さに感服するとともに、興味を抱いた。本校の朗唱教育に対する心構えも変わったように思う。

(明倫小M先生)



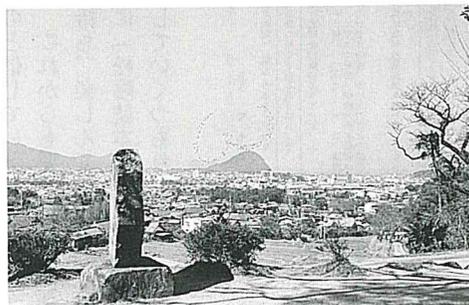
松下村塾で説明を聞く新規採用教員

○ 今回の見学のポイントは、やはり吉田松陰関連の史跡であろう。松陰神社の見学も初めてでは無いが、説明を聞いて、今までなんとなくとらえていた松陰の存在が大きく思えてきた。



誕生地の松陰・金子重輔像

日本の原動力となった。一人の人間が、これほど人に影響を及ぼすことができたのは何であったのかを考えさせられた。  
ある講演で今の教師に求められているものは「教育者の心」であるといわれたことがある。この心というのは、情熱であり愛であると思われる。松陰こそまさに情熱と愛の化身ではなかったのか。(三見小K先生)



松陰誕生地から萩市街を臨む

松陰を理解するということは不可能なことであるが、この見学を通して改めて、吉田松陰の理想としたものは現代の教育の中でも十分通用するものだという感じを持った。「自分達の教育の場は自分達で築こう」この精神をこれからの教育の中にも大いに生かして、日々の教育に努めていきたい。(白水小H先生)

○ 三角洲という地形、水との闘い、その中で生まれた萩独特の気風、この気風をもとに吉田松陰の教育が根付いたようである。

松陰はわずか一年という期間松下村塾において『師弟同行』の教育を実践し、多大な影響を及ぼし、その教えを受けた弟子達は明治維新を通して、新しい

○ 学校教育における松陰教学  
萩市の学校教育の基本方針を受けて、市内の小中各学校はそれぞれ、学校の特色や、立地を配慮しながら、松陰教学を教育指導計画に入れている。  
平成二年度の市内各学校の、学校教育目標や学校経営方針な

どに、松陰の教育理念が入れられている現状は次の通りである。すなわち、小学校十一校中「師弟同行」という語が取り入れられている学校が九校、「師弟同行」と「至誠」という語が取り入れられている学校が九校、「師弟同行」と「至誠」の両方の語を取り入れている学校が三校である。

この様に、市内のほとんどの学校が、「師弟同行」「至誠」等の語を取り入れているが、直接「師弟同行」「至誠」という語を入れていない学校も、松陰の教育理念を、学校経営の随所に強く押し出していることでは他の学校と同じである。

また、各学校ともに、それぞれの学校の実情にあわせながら松陰に関する資料を集めている。また、ちょっとした松陰コーナ



松陰コーナー（指月中）



松陰レリーフ（萩第一中）

ーをもうけている学校もある。

幸い、市内小中学校のすべてに、有志から寄贈された山口県教育会編纂「吉田松陰全集」があり、大いに活用されている。

○ 萩市小中学校校長会における松陰教学講演会

萩市の小学校と中学校の校長会は合同で、毎年八月、吉田松陰についての講演会を行っている。ここ数年間の講師は、元校長の末永明氏、山口女子大教授の河村太市氏、元長門市助役の岩本肇氏、松風会理事の三輪稔夫氏、元萩市助役の井町新熊氏等、吉田松陰研究においては県下でトップレベルの方々である。

○ 萩市中学校校長会における松陰教学への取組

萩市内の各中学校では、萩市の学校教育基本方針を受けて、それぞれ、その具現化に努めているわけであるが、中学校長会としても、昭和六十年から松陰教学についての研修に組織的、計画的に取組むことにした。そしてその三年間にわたる研修の成果は、昭和六十二年「松陰教学の推進」として研究紀要にまとめられた。それ以来、松陰教学は萩市中学校長会の中心的な研修課題として研修が続けられ、毎年研究紀要にその成果が収められている。

昭和六十二年度から、平成元年度までは、各校の松陰教学への取組の様子や、指導例の紹介を中心に編集されたが、平成二年度は、「松陰教学講話集」と題し、もっぱら各校における校長の生徒を対象にした講話内容を載せることにした。

○ 講話例

「友を思う心」

本校の校区内に「保福寺」と言う、曹洞宗の寺があります。浜崎や北古萩方面の人は知っていますね。グランドホテルから

指月公園の方へ向かっていくと熊谷町を横切ります。それから

さらに一〇〇メートルほど行く

と、「上の町」へ曲がる四つ角があります。少し広くなっている電話ボックスがあります。近くに亨徳寺、海潮寺、ちょっと離れて本行寺があります。

この保福寺に金子重輔や明倫館の学頭だった山県周南、太華、それにわが国の解剖学の草分けである栗山孝庵の墓があります。が、あのあたりから来る皆さんは、寺の入り口に書いてありますから知っていますね。

金子重輔の墓に粗末な一对の花筒があります。良く見ると「吉田氏」と彫り込んであります。これは吉田松陰が、金子重輔の死を悼んで贈ったものです。金子重輔は今の福栄村紫福の染め物屋に生まれました。青年になって、酒で失敗しました。このままではいけないと反省し、江戸に出て働き口を見つけ、なんとか立ち直りたいと頑張っていました。が、思うようにいきません。その頃、江戸に出ている吉田松陰と出会い、松陰から人間の生き方について教えられる間、そのときこころになってしま

いました。それから後は皆さんが良く知っていますように、松陰と一緒に黒船に乗ってアメリカに行こうとして失敗し、牢屋に入れられ

てしまいました。しばらく江戸の牢屋に入れられていた二人は



金子重輔の墓

萩の牢屋に移されることになりました。ところが金子重輔は江戸の牢屋での暮らしがこたえ、重い病気にかかっており、幕府の役人から判決を聞く時も歩けないので、むしろの上で転がったままの重輔を、役人がむしろごと引きずって行くありさまでした。

いよいよ萩へ護送される時は、もちろん縛られて籠に入れられたままで、重輔は激しい下痢と、体中吹き出物がでて、眼も当てられないありさまでした。役人達はこのような重輔を薄い布団でくるんで紐で縛ったままで、どんなに汚れても着替えさせようとしませんでした。実は、役人達は重輔の着替えを預かって来ていたのです。重輔は着替えさせてくれとなんども頼みましたが、役人達は聞き入れません。松陰も役人達に、重輔の汚れた着物を着替えさせてやるように何度も頼みました。どうしても役人達が聞き入れよ



野山獄址

岩倉獄址



うとしませんでした。松陰は自分が着ていた着物を脱いで、それを重輔にさせるよう頼みました。冬の初めの頃ですから、小雪がちらつき、ずいぶん寒い日です。重輔は「先生有り難うございませす。でも、私はどうせもうすぐ死ぬのだから構いません。どうか先生着てください」と泣いて訴えます。根負けした役人はやっと重輔に着物を着せました。萩に着いた二人は野山獄と岩倉獄に入れられました。重輔の病気は段々ひどくなり、夢うつつの中で、日本の将来を憂えて

吟じる重輔の声が野山獄の松陰の耳に聞こえます。松陰は岩倉獄に向かって「重輔や、死ぬなよ。頑張れよ」と声を掛けます。その甲斐も無く、重輔は岩倉獄の中で短い生涯をとしてしまいました。

松陰は、兄梅太郎あての手紙で「昨夜は夜通し重輔のことを考えて過ごしました。重輔のために、牢屋での食事を儉約してお墓の前に灯明台を買って上げたいと思います。また、お墓は先祖の墓に合葬にするとか、○信士とかせずに、堂々と金子重輔の墓と書いてほしい」といっています。その当時、幕府の掟に逆らって牢屋で死ぬということがどういうことか考えると松陰のいっていることが、どんなに危険で、勇気のいることか分かります。



松陰が贈った花筒

保福寺の花筒は、松陰が獄の中で食事を儉約して蓄えたお金



吉田松陰の墓

で、重輔のために贈ったものですが、重輔の墓はざっと後、明治になって、今のような石の墓が作られたのです。また、岩倉獄には、松陰が重輔の死を悼んで作った詩がありますが、友人吉田松陰と署名がしてあります。あの方向に帰る人は是非見ておいてください。

○ 社会科学習における 吉田松陰

萩市の小学校は「松陰読本」を使って、系統的、計画的に学習を進めているが、中学校では、社会科で松陰を取り上げるぐらいで、特に学年を追っての計画的な指導を行っている学校はないようである。ただ、一部の学校で、全校集会などを利用して、

全教師が交替で吉田松陰についての講話を行う等の試みは行われている。

萩市教育委員会は中学校社会科学習の手引きとして、「郷土萩」を作成し、市内全生徒に無料で配布している。この「郷土萩」は地理的内容と歴史的内容からなり、当初「目で見る郷土萩」という表題で編集されたことから分かるように、写真や地図がふんだんに取り入れてある。萩の歴史的背景からして、幕末には特に力が入れてあり、吉田松陰および松下村塾についての資料も多く取り入れてある。

次に萩市における中学校社会科での、吉田松陰の取扱いの一例をあげてみる。

# 社会科(歴史的分野)学習指導案

萩市立明経中学校教諭

植野 健 二朗

- 一、対象 第二学年
- 二、単元名 開国と幕府の滅亡
- 三、指導計画

- ① ペリー来航、不平等条約
- ② 安政の大獄、攘夷から討幕へ……………1時間
- ③ 開国の影響と「世直し」への期待

大政奉還と王政復古……………1時間

- 四、本時の指導
- ① 題材 安政の大獄、攘夷から討幕へ
- ② 指導にあたって

萩市は「明治維新発祥の地」といわれ、歴史的な文化遺産や日本の歴史を大きく動かした先人達が多い。本校の校区や通学路にも野山獄、松下村塾、東光寺をはじめ有名な文化遺産が残っている。生徒たちは、これまでそれらのことについて興味をもち深く知っている者や、そうでない者などの個人差があるようである。萩市に関するすべての文化財や先人たちについて深

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一、日米修好通商条約を結んだ経過を想起する。 二、尊王攘夷論の意味を考え、幕府の開国論と対立していくことを理解する。 三、吉田松陰の思想や行動を理解しながら、安政の大獄から桜田門外の変の過程を理解する。	・井伊直弼の動きを中心に確認する。 ・尊王攘夷論が水戸藩を中心に盛んであったことにふれておく。 ・ワークシートを用い、吉田松陰の一生についてふれ、心に残ったことを感想としてまとめ、処刑後も吉田松陰の精神が門下生によって引き継がれていったことに気付かせる。 ・両藩がどのような戦いをしたのかを教科書や資料集をもとに調べ、下関砲台占領や女台場などの話を付け加える。
四、尊王攘夷論を主張した長州薩摩藩の諸外国への抵抗を調べる。 五、長州・薩摩藩は、諸外国との戦いの後、どのような考えに変わっていくかを考える。	・討幕という一つの目標が薩長同盟を成立させたことに気付かせ、坂本龍馬、高杉晋作、木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通らについて簡単に触れておく。 ・イギリス、フランスの動きを中心に説明する。
六、討幕派の勢力に対する外国の動きを理解する。	

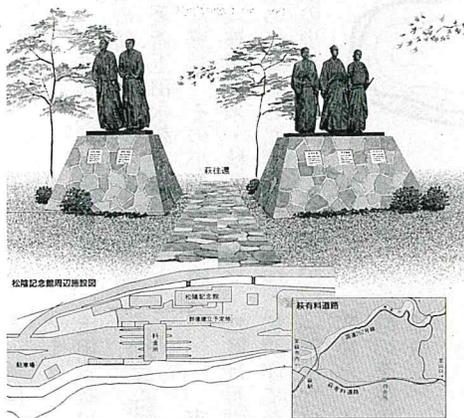
く学習することは困難であるが、安政の大獄を通して幕末変革期の中心的な人物である吉田松陰をとりあげその思想に迫り、時代背景を理解させたい。

### ④ 指導過程

③ 主眼 開国後幕府のとつた内外への対応策が尊王攘夷論を形成させ、幕府と尊王攘夷派の対立は、討幕運動に結びついていった経緯を吉田松陰の思想にふれながら理解させる。

五、評価  
吉田松陰の思想や行動について感想を持ち、安政の大獄から討幕運動への経緯が理解できたか。

## 松陰群像建立イメージ図



## 松陰群像建立募金趣意書

皆様には益々御清栄のこととお喜び申し上げます。  
 さて、山口県・萩市では、吉田松陰生誕 160 周年記念事業の一環として、「維新のふるさと」萩市の南玄関口にあたる萩有料道路サービスエリア内に、近代日本の礎を築いた教育者「吉田松陰」を紹介した『松陰記念館』の建設を予定されています。  
 そこで、県民や、萩を訪れる全国の方々から教育者松陰をより理解してもらうため、委員会を発足させて、多くの方々から広く浄財を集め、記念館前庭に「吉田松陰と維新の群像」を建立・整備することにしました。つきましては、群像建立の趣旨に御賛同賜わり、募金活動に御協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 3 年 6 月 1 日  
 松陰群像建立推進委員会  
 会長 松永祥甫

### 記

- 募金活動期間 平成 3 年 6 月 1 日～平成 4 年 3 月 31 日
- 建立時期 平成 4 年 3 月末
- 建立目標 10 体程度 (吉田松陰、高杉晋作、久坂玄瑞ほか)
- 募金振込先 松陰群像建立推進委員会  
 (山口銀行県庁内支店 普通預金口座 6007816)  
 (西京銀行県庁支店 普通預金口座 0065748)
- 募金申込・連絡先  
 (財)松風会 〒753 山口市大手町 2-18 ☎0839-22-1218  
 (財)山口県教育会 〒753 山口市大手町 2-18 ☎0839-22-0383  
 萩商工会議所 〒758 萩市江向 457 ☎08382-5-3333

- 萩市観光協会 〒758 萩市江向 433 ☎08382-5-1750
- 山口県(企画課) 〒753 山口市滝町 1-1 ☎0839-22-3111 (内2315)
- 萩市(企画課) 〒758 萩市江向 510 ☎08382-5-3131 (内224)

「松陰研修塾」の発足

一、趣旨

吉田松陰の生涯は、至誠留魂の気魄とその実践に貫かれたものであり、松陰は今なお不滅の光を放ち、本県の誇る偉大な歴史的逸材である。

松陰の生き方は、時代をこえて常に課題解決の指針を我々に示唆しており、くめども尽きることのない深奥な人間像とともに、限らない探求が今日望まれている。現代社会に生きる人間を取り巻く環境の急激な変化に伴い、主体としての人間の在り方があらためて問われている時、松陰の精神的遺産に学び自らの資質向上に努めることは極めて重要である。

研究の完成には長い年月を要するが、三カ年を単位とする研究を構想しここに「松陰研修塾」を開設する。

- 二、主 題 吉田松陰の甦る道を求めて — 松陰像の追究 —
- 三、主 催 (財)松風会 (財)山口県教育会 山口県中学校長会 山口県高等学校校長協会 後援 山口県

教育委員会 開催地教育委員会 山口県教育財団

四、研究課程 (三カ年の計画)

- 第一次 (平成三年度) オリエンテーション (松陰の全生涯の概観と研究の進め方)



開塾記念講義

○ 生徒から下田踏海にいたる松陰像 ○ 研究テーマの設定

第二次 (平成四年度) ○ 幽因・松下村塾時代から殉難にいたる松陰像

○ テーマ別研究の推進

第三次 (平成五年度) ○ 松陰の人間像とそのまとめ

○ テーマ別研究のまとめ

五、平成三年度開催期日及び会場

- (1) 6月29日(出) 山口市 山泉荘
- (2) 8月19日(月) 萩市 萩 青年の家
- (3) 11月30日(出) 12月1日(回) 美東町 秋吉台少年自然の家

六、参加者

(1) 松陰研究を希望する者 (一

枚当たりの人数制限なし) (2) 定員 65名 (国公私立・中・高・特殊教育諸学校)

七、研究推進計画

○ 至誠留魂の気魄とその実践にふれ松陰の生涯を通して松陰像を追究する

(1) 松陰の著作・書簡等をもとに共同研究を進める

(2) 常時、自主研究テーマによる研究の推進に協力し、研究相談に応ずる

(3) 講義・演習・巡検・協議その他多様な研究方法をとり入れる

(4) 各単位時間の内容精選を重視しつつ、ゆとりと充実ある時間割とする

(5) 原則として、土・日・長期休業日等を共同研究日に充てる

(6) ライフワークにまで発展できよう協力する

八、講 師 (敬称略)

○ 松陰研究者 三輪稔夫 井町新熊 松田輝夫

○ 山口女子大学教授 河村太市

○ 松陰研究に御造詣の深い方々

九、研究参加に要する交通費・宿泊費等は松風会が負担する

十、中心資料

(1) 吉田松陰入門

(2) 吉田松陰入門研究資料集

神國令

玉田永教著 享和三年

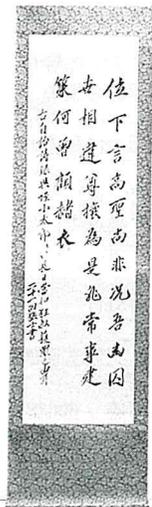
松陰の父杉百合之助は、萩において著者玉田永教の講演を聴き大いに感じ、その小冊子『神國令』(神國由来・秋洲一首文)を求めて愛読した。兄杉梅太郎

松陰の少年時代、『文政十年詔』

と『神國令』とは二人の教科書として与えられた。

玉田永教は京都賀茂神社の神官として与えられた。 孫子評註 上・下 吉田松陰 文久三年 松陰は兵学家で、山鹿流のほか和漢洋にわたって広く研究し、『孫子』についてはその蕩奥を究めた。この『孫子評註』は松陰の著作中、最も学問的な労作である。

資料展示室



小太郎宛書簡



小田村伊之助宛書簡・跋



小田村伊之助宛書簡